

「地域で学ぶ」の評価にむけて～ルーブリックへの基礎的理解とその実践～ 実施報告

開催日程：平成26年7月5日（土）10：00～16：00

開催場所：金沢星稜大学 本館4階大会議室

講師：杉森 公一先生（金沢大学 大学教育開発・支援センター准教授）

参加者数：22名（内訳：大学教員18名、事務職員3名、大学院生1名）

研修の流れ：

- 10：00～11：30 講演「ルーブリックとはなにか？」
背景（大学教育の質的転換アクティブ・ラーニング、学生参加と協同学習）
- 11：30～12：00 ワーク①「ルーブリックを使った評価体験」（レポート評価）
- 12：00～13：00 休憩・昼食
- 13：00～13：45 ワーク①続きの実施、及び解説
- 13：45～14：30 ワーク②個別授業のふりかえりとディスカッション（5グループに分かれて実施）
- 14：30～14：40 休憩
- 14：40～15：40 ワーク③個別授業でのルーブリック作成および意見交換
- 15：40～16：00 各グループからワークの内容について報告
- 16：00～16：15 まとめ、事務連絡
杉森先生より作成したルーブリックの共有についてご提案あり。
※希望者はメールにて杉森先生へ作成ルーブリックを提出することで、他の先生のルーブリックを共有することが出来る仕組み。

- 当日配布資料：
- (1) 講演スライド資料の印刷版
 - (2) ワークショップについてのスライド資料の印刷版
 - (3) ワークシート
 - ・理想の学生像・学修成果の振り返り（reflecting）
 - ・「能動的学び」レポートのルーブリック
 - ・「能動的に学ぶ」レポート1、2
 - (4) 参考記事 『文部科学教育通信』「ルーブリックが結ぶ教育接続」連載記事
 - (5) 「学都いしかわ・グローバル人材育成プログラム」リーフレット
参照：http://gakuto.ucon-i.jp/wp/wp-content/uploads/pdf/2014_UCI_B5.pdf
 - (6) 「学都いしかわ・グローバル人材育成プログラム」スタンダードリスト
参照：<http://gakuto.ucon-i.jp/gakutoprogram/standardlist/>
 - (7) ふりかえりシート（提出用）

- 事前配布資料：
- (1) 当日内容、事前課題についてのスライド
 - (2) ワークシート 3段階ルーブリック（当日使用）
 - (3) 参考記事 『文部科学教育通信』「ルーブリックが結ぶ教育接続」連載記事
- ※7月2日（水）参加申込者に対してメールにて事前送付を実施

当日の様子（講演～ワーク～ふりかえりと発表）



参加者ふりかえりシートより 回収：16名（回収率：72.7%）

1. 研修会を通じての気づき、学びについて

- ・作成にかかる考え方の理解が出来た。
- ・普段やっている事柄は、そう間違っていなかったと思った。
- ・ルーブリックを使っている人は少ない。
- ・ルーブリックの内容から作り方まで学びました。
- ・また同じ参加者の皆様から様々な問題意識や気づきを得ました。
- ・ルーブリックは学修ツールとして有効だと思いました。
- ・評価について再考する機会を得ました。
- ・今回は個別課題のルーブリックを作成してみた。案外整理に役立つツールだと感じたが、毎週課題を課しているので大変であるかもしれない。科目全体のルーブリックは作成できるか不安。
- ・ルーブリックは採点をラクにするため、程度にしか認識していなかった。しかし、学生にどこを目指して欲しいのかを提示する効果があると気付いた。
- ・ルーブリックを新たに見直し、活動できる展望が開けた。
- ・ルーブリックの満点を3でなく、4~5位の高いレベルをグレーゾーンにして学生に夢を持たせたい。クリエイティブな思考を伸ばせる。
- ・ルーブリック作成は初めてであったが、参考になった。評価ツールとして万能という先入観があったが、ケースバイケースであるという実感である。（特に経済・経営分野）
- ・ルーブリックを具体化して理解できるようになった。やってみたい、と思えるようになった。
- ・講義を受けて、作れる気になっていたが、実際に作ってみたら、当初手がつけられないことを実体験した。実際に作って使われている先生が、グループにいらっしやっただので、些細な疑問を聞けて作成することが出来た。
- ・ルーブリックの仕組みについて、理解を得ることができた。
- ・ルーブリックの理解度が違う人が同時に作業することの難しさを感じるとともに、新しい気づきがあった。
- ・他大学と情報交換ができ、有意義な時間でした。
- ・ルーブリックは手強いです。
- ・教員同士で認識を共有するのにルーブリックの有効性を理解出来ました。

2. 疑問に感じたこと、もっと詳しく聞きたいと思ったこと

- ・学生はルーブリックの活用によって、ある一定レベルには到達することが出来る。しかし、レベル3以上のものはどのように評価するのだろうか。
- ・企業の業績評価ツールとして、バランス・スコア・カード（BSC）というものがあり、よく似た形式であるが、現在BSCは評価ツールというよりも、企業の戦略ツールとして使われることが多い。ルーブリックの目的も場合によって多様化の可能性があるのでと考える。
- ・様々なルーブリックの実際を見ながら検討し、より良いルーブリック作成が出来るようになりたい。
- ・理論的説明は理解できるため、ルーブリックの活用事例、サンプルがあればと感じた。
- ・日本のルーブリックの状況。

<実施後アンケート>

①回答者の属性

- ①大学（高等教育機関）教員：14名
- ②大学職員：1名
- ③学生：1名（専門学校）
- ④行政職員：なし
- ⑤民間企業職員：なし
- ⑥その他：なし

②本研修参加前の「ルーブリック」に対する理解について

- ①十分に理解していた：1名
- ②概ね理解していた：7名
- ③名称程度は知っていた：8名
- ④知らなかった：なし

③本研修に参加した目的や期待していたこと

- ・作成のロジックの理解
- ・以前にルーブリックについて説明を受けたが全然わからなかったので参加することにした。今回の説明で、非常によくわかりました。
- ・もっとルーブリックを理解する。
- ・ルーブリックを後期の授業で活動できないかと思って参加しました。
- ・自分の担当するプログラムの評価を今作成中であり、その勉強のため。
- ・本学に取り入れられるのか知りたかった。
- ・本格的に導入するための具体的な方法
- ・一度作ったルーブリックでしたが、作っても作らずとも有益性がなかったので、明日から再チャレンジ。学生に向けて…ではなく、若手教員へ「作るぞ～！」の掛け声を！
- ・本格的な導入のため。
- ・ルーブリックの言葉のみの理解だったので、具体的に実践できるようになりたかった。
- ・ルーブリックについて詳しく学び、作り、実際に使うため。
- ・自己の理解度の確認と新しい情報の取得。
- ・ルーブリックの再学習。
- ・自学のFDに活用したい。
- ・ルーブリックに関して理解したいと思って参加しました。

④研修会の内容について

①大変よかった：9名

- 理由・アクティブ・ラーニングの手法についても理解できた。
- ・杉森先生の資料と解説、さらにグループ学習。
 - ・具体的な作成方法など、現場に活用できることを学べた。
 - ・具体的に実践できるスキルをつけることが出来たと思う。
 - ・ルーブリックを具体的に理解し、作ることが出来た。

②よかった：7名

- 理由・もう少し勉強しないと十分に理解できたのか心もとない。
- ・時間の制約はあったが、かなり内容は充実していた。
 - ・教育学の専門ではないため、その分野の新しい知見が得られた。

③あまりよくなかった：なし

④よくなかった：なし

⑤研修会のすすめかたについて

①大変よかった：10名

- 理由・臨機応変でした。
- ・しかし、少し時間が足りない。90分のプログラムにして分けることが望まれる。
 - ・普段はグループ学習のファシリテーター的な役割を担うことが多いので、グループ学習の参加者になってみて新たな発見がありました。
 - ・講師の杉森先生が誠実。
 - ・タイムキーパー 成功。
 - ・わかりやすかった。
 - ・グループワークがよかった。
 - ・やや時間が超過したのは残念。

②よかった：6名

理由・最終段階で時間が足りず、もう少し作成したルーブリックの相互理解や添削をする時間が欲しかった。

- ・作業の時間がもう少し確保できれば。

③あまりよくなかった：なし

④よくなかった：なし

⑥本研修内容を今後どのように生かしていくことができると思いますか？

- ・自らの授業に活用していく。
- ・授業でやってみようと思います。
- ・学内で広める。
- ・早速、後期のレポート、卒論にルーブリックを使います。
- ・プログラムの評価の作成に生かしたいと思います。
- ・まだまだこれから。
- ・学生に、「どう成長して欲しいのか」を伝えやすくなった。
- ・本格的な導入。
- ・生かしていきたいが、他の教員とどのように共有して広めていけばいいか悩む。
- ・実際に使ってみたい。
- ・ゼミなどでルーブリックの活用ができるか研究したいと感じた。
- ・本校でのルーブリック展開。
- ・職員の立場で、建学の精神、ディプロマ・ポリシーに沿ったシラバス（ルーブリック）をチェックする。
- ・情報交換。
- ・学生に対し、こちらの期待する到達目標を明示するようになっていきたいと思っています。

⑦次回研修会が開催されるのであればどのようなことを聞いてみたいですか？

- ・教育内容及び評価における量的・質的な可変換性。教育における規律性と開放性。アクティブ・ラーニングにおけるアクティビティの強迫性、強要性。
- ・学都いしかわグローバル人材育成プログラムについて
- ・プログラムや大学単位のルーブリックについてもっと知りたいと思います。
- ・カリキュラムのナンバリング
- ・作成したルーブリックの相互発表と、添削をしてみたい。
- ・もっとケースメソッド（分野ごとに）を用いて深められるセミナー。
- ・ルーブリックの実践事例の紹介。
- ・ポートフォリオの活用の仕方。
- ・ポートフォリオを使った、アクティブ・ラーニングについて。
- ・学修ポートフォリオについて、無知であるため、知識が得られる機会があればと感じた。
- ・教学 IR。
- ・ファシリテーション。

⑧その他

- ・ありがとうございました。
- ・毎回出席したくても、出張と重なり残念です。
- ・長い時間でしたが、短く感じました。

まとめ

本研修会は開催のねらいを以下のとおり設定し、募集案内に明示した。

学習達成度を判断・評価する基準を示すツールとして「ルーブリック」が注目されている。今回の研修会では、ルーブリックについての基礎的な理解を深め、実際にルーブリックを使っての評価を体験する。その後、学生評価のためのルーブリック作成を、個人授業の学習目標のふりかえりと合わせて行い、実用レベルへの引き上げを目指す。

研修会の事前に配布された関連資料、当日の実施内容、そして参加者からのふりかえりシートをもとにしての主催者の自己評価としては、当初のねらいについては概ね達成することができたと感じている。

参加者の数名は実際にルーブリックを学生評価に導入していた。一方、多くの参加者はルーブリックについて「概ね理解していた」、「名称程度は知っていた」が実用レベルには至っていなかった。しかしながら、ワークの中で、ルーブリックを用いてのレポート評価のロールプレイングや、各参加者の個人授業のルーブリックを作成する中で、「実際に自分の授業でルーブリックを使ってみたい」という声が多く聞かれたことは今後の進展への第1歩となっただろう。

また、本大学間連携共同教育推進事業「学都いしかわ課題解決型・グローバル人材育成システムの構築」においても、各種プログラム及びプログラムを通じての学生の能力獲得の質保証という点で、ルーブリックを用いた評価法は非常に重要な意義を持つ。

今回の研修会を通じて得られた知見の蓄積を今後の発展につなげていくことが大いに求められるであろう。

今後の展望

今後の課題や、参加者からのニーズをふまえた今後の展望を以下のとおりの案として進めていきたい。

- (1) 本研修会の中で、参加者が作成したルーブリックを集約し、共有する
※希望者による任意参加の活動として実施

- (2) ルーブリック実導入に向けての研修会の開催（9月下旬）
平成26年度後期授業科目でのルーブリックの実導入に向けて、必要なスキルを学ぶ。

内容（案）

- ・導入事例の紹介（学生への提示、評価の実践まで）
- ・作成したルーブリックの持参、共有
- ・フォローアップ研修の開催周知

- (3) フォローアップ研修会の開催（2月下旬）
平成26年度後期授業科目でのルーブリック実導入の結果についての共有とふりかえりを実施。

内容（案）

- ・導入実施教員からの事例報告
- ・グループワーク等でのノウハウ共有
- ・新規参加者は、導入事例報告を聞くことで、以後の導入イメージを持つことが可能

- (4) 本研修会を含め、今後の実施内容を報告書としてまとめ、ルーブリックの導入、実践、評価、改善のPDCAサイクルの実践記録とする。（3月末完成予定）